

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2022
1月号
No.747



令和3年度野菜たっぷり料理レシピコンクール受賞作品

マンスリーレポート ————— 2

- ・2022年 年頭のごあいさつ
- ・令和3年度野菜たっぷり料理レシピコンクール
- ・徳島県青果物情勢報告会
- ・「土壌に関する研修会」野菜の基礎的な土づくりと施肥
- ・第49回徳島県内産和子牛共進会
- ・大学食堂企画で「徳島すだち微炭酸」をPR
- ・第39回JA徳島大会

年始広告 ————— 6

旬の野菜でおうちごはん ————— 8

- ・本格★ほうれん草カレー

浜ちゃん・ちっちゃんのうまいモノ絵日記 ——— 9

- ・その⑭ ～代々栄える「だいだい」～

交通安全お知らせ ————— 9

- ・令和3年中の交通事故発生状況について

トピックス ————— 10

- ・営農コラム

2022年 年頭のごあいさつ ～全農徳島県本部～



全農徳島県本部 運営委員会会長
前田 安夫

全農徳島県本部運営委員会

会 長	前田 安夫 (JAあわ市)
副会長	佐々木伸夫 (JA大津松茂)
委 員	松田 清見 (JA徳島市)
	荒井 義之 (JA東とくしま)
	澤口 佳史 (JA名西郡)
	木村 晃 (JAアグリあなん)
	濱崎 禎文 (JAかいふ)
	橋本 浩 (JA板野郡)
	美崎 健二 (JA徳島北)
	平田 敏 (JA里浦)
	川村 修 (JA麻植郡)
	藤本 博明 (JA美馬)
	大西 常夫 (JA阿波みよし)
	中西庄次郎 (JA徳島中央会)

全農徳島県本部

県本部長	長江 郁哉
副本部長	坂本 雅彦
副本部長	宮田 卓次

職員一同

あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、全農徳島県本部の事業全般にわたりまして、格別のご支援ご協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症発生から2年が経過しましたが、同感染症は収束と拡大を繰り返し、依然として全世界の経済環境に大きな打撃を与えています。我が国も例外ではなく、我々JA組織も事業活動の制限を受け、あるいは自粛を余儀なくされ、役職員・組合員の皆様方におかれましても、日々の感染予防対策にご心労が絶えなかったことと思います。

国内農業を取り巻く状況としては、豪雨や凍霜害などの自然災害に加え、豚熱(CSF)や高病原性鳥インフルエンザなどの重要家畜疾病も発生し、経済の停滞と相まって農業現場に甚大な被害を与えています。一刻も早い復旧が望まれます。

一方、農政では令和3年11月18日、総理大臣官邸において第31回農林水産業・地域の活力創造本部が開催され、岸田総理は「新しい資本主義の下、成長の果実を農林漁業者にも広く実感していただけるよう、農林水産業の成長産業化を進めるとともに、家族農業や中山間地域農業を含め、農林水産業の持つ多面的機能を維持し、多様で豊かな農林水産業を構築する」と述べられており、政府一体での取り組みに期待が高まります。

このような中において、全農は本年、新たな「中期3か年計画(2022～2024年度)」をスタートさせます。新型コロナウイルス感染症による行動変容、国内人口の減少と高齢化、世界人口の増加やさらなるグローバル化、デジタル化、脱炭素化など、事業を取り巻く環境は大きく変化しています。そのため、中長期的な視点に立ち、2030年の全農グループの目指す姿を「持続可能な農業と食の提供のために“なくてはならない全農”であり続ける」と決めました。その実現に向け「生産振興」「食農バリューチェーンの構築」「海外事業展開」「地域共生・地域活性化」「環境問題など社会的課題への対応」「JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築」という6つの全体戦略を設定し、事業拡大に取り組むことで「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」に貢献してまいります。

徳島県本部においては、JA経営基盤強化のためのJA支援を一層強化し、県域物流(農家戸配送)や農機協同事業体の拡充、実需者ニーズにもとづく生産振興の提案、実需者と結びついたバリューチェーンの構築、企業と連携した労働力支援など、会員・組合員から負託された営農支援、販売・購買の事業機能の最大化に努め、県内JAと共に農業生産基盤の維持・強化に取り組んでまいります。

結びとなりますが、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会が世界中に届けてくれた元気と勇気、感動を胸に、令和4年こそは、コロナ禍から回復した社会「アフターコロナ元年」となりますことを心から願いますとともに、徳島県農業の発展と、組合員およびご家族皆様方のご多幸ご繁栄をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

～健康増進と徳島県産農畜水産物の消費拡大へ～

令和3年度野菜たっぷり料理レシピコンクール

12月19日、徳島市万代町の徳島グランヴィリオホテルにおいて、「令和3年度野菜たっぷり料理レシピコンクール」(主催＝徳島県、徳島県教育委員会、JA全農とくしま)が開催されました。

これは、徳島県の優れた野菜の魅力を知ってもらい、誰もが作ってみたいと思う簡単で魅力的な野菜料理レシピを広く県民に発信し、健康増進と徳島県産農畜水産物の消費拡大をはかることを目的として、平成26年度から開催しているコンクールです。

今年度は、徳島県在住の小学生以上の出品者から1318点の応募があり、一次審査(書類審査)で選出された8作品について、出品者による作品説明や審査員による試食などの二次審査(最終審査)がおこなわれました。

審査は、飯泉嘉門徳島県知事、榊浩一徳島県教育委員会教育長、長江郁哉全農徳島県本部長、松村晃子徳島県栄養士会会長ら7人の審査員が、①テーマ、②食味、③普及性、④利用性、⑤外見の5項目を評価しました。

厳正な審査の結果、徳島県立城南高等学校2年の武岡南さんの作品「スダチヂミ」が最優秀賞を受賞しました。武岡さんの作品は、すりおろしたレンコンのもちもち感と丸ごとみじん切りしたスダチの香りと食感を生かした料理となっていました。武岡さんは「何度も作り直し工夫しました。とても嬉しいです」と話してくれました。

また、JA全農とくしま賞は、松茂町立喜来小学校6年の藤田実優さんの作品「トマト大大大好き!! 栄養満点おうちリゾット」が受賞しました。

閉会式では、長江県本部長が「これからも徳島県の野菜を使った料理をたくさん作ってください」「全農では、食育活動や消費宣伝活動を通じて、多くの方に県産農畜産物を召しあがっていただき、認知度アップと消費拡大につなげていきます」とあいさつをおこないました。

徳島県では、今回の優秀作品を掲載したレシピ集の作成や、SNS・ホームページでの紹介などにより、徳島県産農畜水産物の販売促進に活用する予定です。

各賞の受賞者は次のとおりです(敬称略)。

◇最優秀賞

「スダチヂミ」武岡 南(徳島県立城南高等学校2年)

◇JA全農とくしま賞

「トマト大大大好き!! 栄養満点おうちリゾット」藤田実優(松茂町立喜来小学校6年)

◇徳島県教育委員会教育長賞

「すだち君のシャキシャキレンコンバーガー」脇田花音(徳島市立論田小学校4年)

◇優秀賞

「夏野菜のライスピザ」藤田真言(徳島市立南部中学校3年)

「夏がつまった夏野菜そば米パエリア」杉田彩寧(徳島県立城ノ内中等教育学校3年)

「野菜たっぷり油揚げの包み煮」矢石心美(東みよし町立三加茂中学校1年)

「阿波尾鶏と徳島県産野菜もりもりねばねばそばあ〜」逢坂 快(美馬市立美馬小学校2年)

「夏野菜のみそチーズ焼き」佐藤怜奈(鳴門教育大学付属中学校2年)



令和3年度野菜たっぷり料理レシピコンクール参加者



最優秀賞を受賞した武岡南さん(右)



出品者の作品説明を受け試食審査を行う審査員



あいさつを行う長江郁哉県本部長



最優秀賞
「スダチヂミ」



JA全農とくしま賞
「トマト大大大好き!!
栄養満点おうちリゾット」



徳島県教育委員会教育長賞
「すだち君のシャキシャキレンコンバーガー」

～徳島県産農産物の安定的な取扱量確保を～

徳島県青果物情勢報告会

12月8日、当県本部と徳島県青仲会（県産品のブランド化・有利販売を目的に、徳島県青果物を取り扱う関西の主要青果物卸売会社17社で構成）は、コロナ禍における徳島県産農産物の安定的な取扱量の確保を図るため、徳島市内のホテルで「令和3年度徳島県青果物情勢報告会」を開催しました。

報告会には、徳島県青仲会の卸売市場会社9社の役員、県内JAの組合長および役員、徳島県など関係者約60人が出席し、県内青果物の生育出荷状況やコロナ禍で変化している流通状況についてそれぞれの立場で情勢報告や意見交換をおこないました。

会議の冒頭では、前田安夫運営委員会会長と吉川勝徳島県青仲会会長の両主催者による開会のあいさつのあと、来賓の勝野美江徳島県副知事、中西庄次郎徳島県農業協同組合中央会会長にごあいさつをいただきました。

続く報告会では、徳島県青仲会を代表し大阪中央青果株式会社、京都青果合同株式会社、神果神戸青果株式会社の3市場が青果物の流通状況や消費動向の変化についての報告をおこない、徳島県産青果物の出荷数量拡大の要請がありました。また、JA徳島市、JA板野郡、当県本部は、県下JA・生産者を代表して徳島県青仲会に向け主要品目の生育出荷状況や本県の生産販売対策を報告するとともに、今後の有利販売を要請しました。

報告終了後、徳島県産食材を使用した試食会が催され、出席者はメニューの紹介後感染症予防対策をとりながら試食や意見交換をおこないました。

出席者それぞれが活発に意見を交わした報告会は、「本日のご提言やご講演の内容を、今後の徳島県農業の発展に役立ててまいります」との佐々木仲夫運営委員会副会長のあいさつで閉会しました。



開会のあいさつを行う前田安夫運営委員会会長



開会のあいさつを行う吉川勝徳島県青仲会会長

～令和3年度徳島地区農村青少年講座制研修～

「土壌に関する研修会」野菜の基礎的な土づくりと施肥

12月10日、アグリクラブ徳島、徳島県東部農林水産局は、当県本部や開発肥料株式会社、徳島県農業青年クラブ連絡協議会の協力のもと、徳島市新蔵町の徳島合同庁舎会議室において、令和3年度徳島地区農村青少年講座制研修「土壌に関する研修会」を開催しました。

この研修会は、野菜の栽培技術の向上や次代の担い手としての資質向上を目的に実施されたもので、参加したアグリクラブ徳島会員、県関係機関、当県本部職員などの関係者約50人は、土壌の基礎知識や土づくり技術への理解を深めました。

本研修会のメインである座学では、開発肥料株式会社営業部技術顧問の甲谷潤氏により「野菜の基礎的な土づくりと施肥」と題して、①土壌の基礎知識、②野菜の土づくりと施肥、③さらなる地力向上で安定した野菜生産を目指すなどの内容について講演がおこなわれました。

甲谷講師は「野菜の高品質で安定多収生産をおこなうためには『地力』の高い土壌となるよう、日ごろから継続して土づくりをおこなうことが重要である」と述べ、熱のこもった講義となりました。

質疑応答では、那賀町の若手農業者から「山間部の圃場は作土が元々薄く、表土が風雨などでだんだんなくなってくる、どうすればよいのか」との質問に対し、「現在の作土の保肥力を高めることが大事。有機物や青刈り植物をすきこみ、それによって腐食環境を高め、肥え持ちを良くしてほしい」などのアドバイスがありました。

また、情報提供として当県本部肥料農業課の佐藤泰弘職員による「田んぼの力」「根ものがたり」「アズミン」「ふりかけ堆肥eco」の土づくり肥料3品の商品説明もおこなわれました。

閉会にあたり、徳島県農業青年クラブ連絡協議会の浅樋真一副会長は「私達農業者は、土を1センチでも深く耕すことを心掛け、10年20年先を見て土づくりに励んでいきたい」とあいさつを述べられました。



講義を行う甲谷潤開発肥料株式会社営業部技術顧問



情報提供を行う肥料農業課の佐藤泰弘職員

～最優秀賞に木津直美さん(JAあわ市)の「ふくかがみ」～

第49回徳島県内産和子牛共進会

12月15日、当県本部は、板野郡上板町の上板畜産センターにおいて「第49回徳島県内産和子牛共進会」を開催しました。

県内の繁殖農家の方々が丹精込めて育てた和子牛133頭の中から、厳正な審査の結果、木津直美さん(JAあわ市)の「ふくかがみ」が最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞に輝いた「ふくかがみ」は、父が「福増」、母の父が「百合茂」、飼育期間241日で体重は340kgでした。

審査委員長の徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究課の福井弘之統括研究員からは「この牛は約8ヶ月齢の雌牛で、月齢が標準曲線以上の発育を示しており、体積に富み、均称に優れ、資質・品位についても非常に優れている」との講評がありました。受賞式に代理出席された木津直美さんの義弟、木津光喜さんは「とても嬉しいです」と笑顔で話してくれました。

また、優秀賞には中川岩芳さん(JA徳島市)、優良賞には加茂谷牧場(JAアグリあなん)の出品牛が選ばれました。

共進会に引き続き開かれた和子牛セリ市では、1頭総平均価格(税込)が658,934円、最高価格(税込)は去勢939,400円となりました。また、平均価格(税込)は雌が557,471円、去勢が754,629円となりました。



最優秀賞の「ふくかがみ」と木津光喜さん

～徳島県産農産物を使用した食堂メニューが登場～

大学食堂企画で「徳島すだち微炭酸」をPR

12月6日、徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長＝長江郁哉県本部長)は、徳島大学食堂企画イベントで、当県本部オリジナル炭酸飲料「徳島すだち微炭酸」を無料配布し、同大学の学生たちにPRしました。

このイベントは、徳島県の旬の野菜を大学生に食べてもらおうと、JA共済連徳島(後援＝JAグループ徳島)と徳島大学食堂が企画したものです。JA共済連徳島が徳島大学食堂に寄贈した県産農産物で、同大学の栄養＆料理系サークル「四国栄養学生団体Nuways」の学生がオリジナルレシピを考案し、12月6日から17日まで徳島大学食堂で特別メニューとして出されました。

特別メニューを食べた学生は「普段と違ったメニューを食べることができてうれしい。それぞれ食材の旨味が出ていて徳島の美味しさが詰まっている」と満足していました。

【オリジナルメニュー】

12月 6日～10日: さつまいもご飯、紫カリフラワーとブロッコリーのシチュー、野菜たっぷりベーコンスープ、大根のおかかポン酢和え

12月13日～17日: 卵とトマトの中華炒め、3種野菜の梅ツナサラダ、キャベツの塩ゆこうもみ、ゆこうの凍りわらび餅



食堂利用者へ「徳島すだち微炭酸」を配布



12月6日～10日に提供されたオリジナルメニュー

～持続的な農業実現へ～

第39回JA徳島大会

12月14日、JAグループ徳島は県内JAの代表者など約200人参加のもと、「第39回JA徳島大会」を徳島市のホテルで開催し、「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」をメインテーマに、今後3か年の取り組みを決議しました。

大会委員長の中西庄次郎JA徳島中央会会長は「JAグループ徳島の一層の結集により、組合員や利用者から信頼されるJAづくりに邁進していこう」などのあいさつをおこないました。

大会では、JAグループ徳島の目指す姿を「持続可能な農業の実現」「豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」とし、重点実践項目として、①持続的な農業振興と地域の活性化②不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化③組合員との積極的な対話運動を通じた組織基盤の強化④「食」「農」「地域」「JA」に対する理解の醸成⑤地域統合JA実現への挑戦の5つを決議しました。また不断の自己改革の実践に関する特別決議もおこなわれました。

最後に、本会の荒川隆経営管理委員による「新たな食料・農業・農村基本計画と農協系統の役割～なくてはならないJAとなるためには」と題した記念講演がおこなわれました。



第39回JA徳島大会

北果大阪北部中央青果株式会社
常任相談役 中島康弘
代表取締役社長 三木博司

姫路大同青果株式会社
代表取締役社長 木谷憲一

東果大阪株式会社
代表取締役社長 吉川和男

JA全農青果センター株式会社
代表取締役社長 金山秀範
私たちは生産者と消費者を結びつける橋になります。
おいしい!

大阪中央青果株式会社
代表取締役会長 中島康弘
代表取締役社長 中島啓太

神戸中央青果株式会社
代表取締役社長 越智繁男

和歌山青果株式会社
代表取締役社長 岸泰宏

大果大阪青果株式会社
代表取締役会長 植田孝一
代表取締役社長 中内良一

神果神戸青果株式会社
代表取締役社長 原田俊一

奈良中央青果株式会社
代表取締役社長 山口義一

京果グループ
京都青果合同株式会社
代表取締役社長 内田隆

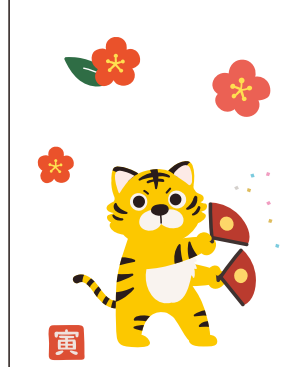
大阪南部合同青果株式会社
代表取締役社長 中谷泰明

株式会社 奈良大果
代表取締役社長 川端康弘

園芸部関係企業

大果大阪青果株式会社 北部支社
専務取締役支社長 酒井孝博

神果神戸青果株式会社 明石支社
取締役支社長 山本昌史



デンカ株式会社
常任相談役 三宅憲雄
アグリプロダクツ部長

協友アグリ株式会社
代表取締役社長 天野徹夫

エムシー・ファーマティコム株式会社
代表取締役社長 川尻崇二

ジェイカムアグリ株式会社
代表取締役社長 吉川哲也



徳島県協同肥料株式会社
代表取締役社長 甘利智章

片倉コープアグリ株式会社
代表取締役社長 小林武雄

日産化学株式会社
代表取締役社長 八木晋介

シンジェンタジャパン株式会社
代表取締役社長の場稔

三井化学アグロ株式会社
代表取締役社長 小澤敏

北興化学工業株式会社
代表取締役社長 佐野健一

クミアイ化学工業株式会社
代表取締役社長 高木誠

生産資材部関係企業

JA西日本くみあい飼料株式会社
代表取締役社長 神野正二

徳島生科研株式会社
代表取締役 柳川義典

株式会社 古田産業
代表取締役 古田信廣

謹賀新年

本年もよろしく
お願いいたします

令和四年 元旦

米穀畜産部関係企業

OATアグリオ株式会社
代表取締役社長 岡尚

ヤンマーアグリジャパン株式会社 執行役員 谷尾精治 中四国支社長	株式会社 中セキ中四国 代表取締役社長 中谷清		NX徳通株式会社 代表取締役社長 大西恭司	愛農運輸有限公司 代表取締役 印藤隆	東海運株式会社 代表取締役社長 阿部功治	有限会社 蔭山運送店 代表取締役 近藤直亀	川本運送有限公司 代表取締役 川本俊輔	協和運送有限公司 代表取締役 清水隆生
環境配慮型フィルムでCO2削減 株式会社 精工 四国営業所 代表取締役社長 林正規	大塚包装工業株式会社 代表取締役社長 小松喬一	第一讃陽ビニール株式会社 代表取締役社長 中西政人	日本青果包装株式会社 代表取締役社長 中西稔	株式会社 トーホク 代表取締役 齊藤雅雄	佐藤産業株式会社 代表取締役社長 佐藤行延		静岡製機株式会社 代表取締役社長 鈴木直二郎	耕うん爪の専門メーカー 株式会社 太陽 代表取締役社長 久松朋水
耐震・省エネの大中型アイジー建物（X外壁材採用） ALC販売株式会社 代表取締役 山本達雄	株式会社 大塚シロアリ研究所 代表取締役社長 前田慶之輔	株式会社 坂本工務店 代表取締役 坂本新太郎	総合建設業 美土利建設工業株式会社 代表取締役 宮本雅史	総合建設業 株式会社 鳴鉄工務店 代表取締役 一級建築士 浜田恭志	三晃産業株式会社 代表取締役 石川雅一		ジェイエイ徳島燃料サービス株式会社 代表取締役社長 崎山一誠	生活事業関係企業
萩尾高压容器株式会社 代表取締役社長 萩尾広典	徳島トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 高瀬謙一		株式会社 クマヒラ 徳島営業所 所長 岩佐啓吾	住友不動産株式会社 新築そっくりさん徳島営業所 エリア統括 中村裕二 営業所長 高柳秀明	システム建築・立体駐車場の総合メーカー 日成ビルド工業株式会社 高松営業所 所長 出口知	有限会社 クリエイトハウジング 一級建築士事務所 代表取締役社長 近藤浩二	株式会社 吉岡組 代表取締役 吉岡誠治	有限会社 錦工務店 代表取締役 佐藤裕司
	リンナイ株式会社 代表取締役社長 内藤弘康	中国工業株式会社 代表取締役社長 野村實也	株式会社 JALIPガス情報センター 代表取締役社長 寺崎博章	株式会社 パロマ 代表取締役会長兼社長 小林弘明	愛知時計電機株式会社 代表取締役社長 星加俊之	矢崎総業四国販売株式会社 代表取締役 馬淵滋夫	株式会社 ノーリツ 代表取締役社長 腹巻知	

料理研究家HITOMI先生が薦める、簡単スピーディー、そして楽しんで作れるレシピをご紹介します！



本格★ほうれん草カレー



▼材料(4人分)

ほうれん草……………1束
鶏むね肉……………1枚
炊き立てご飯……………適量
パプリカパウダー……………適量

A { カシューナッツ……………150cc
玉葱……………1個
にんにく……………2片
サラダ油……………40cc

B { ココナツミルク、トマトケチャップ、水…各200cc
カレー粉、ガラムマサラパウダー、クミンパウダー…各大3
塩……………大1



▼作り方



① A、固茹でしたほうれん草、鶏むね肉の順番でフードプロセッサーにかけ、鍋に移す。

② Bを加えて蓋をし、弱火で20分程煮てご飯にかける。

③ お好みでパプリカパウダーをかける。

POINT

ほうれん草はシュウ酸という結石の原因成分があるので必ず茹でて水にさらします。



料理研究家 HITOMI <http://www.hitomi-cook.com>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー（姫路、加古川、明石の3店舗）講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西区民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など



その140 ～代々栄える「だいだい」～

◆謹賀新年◆

みなさま明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。何があっても「生きてるだけで丸もうけ」で人生楽しみましょう。この考えは、お笑いBIG3のひとり、明石家さんまさんがよく使う言葉で、ご自身の長女IMARU（いる）さんの名前は、さんまさん自身が、「生（い）きてるだけで丸（まる）もうけ」から名付けたそうである。

しておく、新しい1年目の実と、2年目、3年目の実が同じ木に実ってしまいます。このことから、「代々の実」＝「だいだい」の呼び名が付いたそうです。縁起物のお正月のしめ縄や鏡もちには、だいだいが使われているのは、だいだい栄えており、今後未来永劫栄えて欲しいという理由からです。

これらのことを知ったかぶりにしゃべって、「答えは回春です」と間違えて言うと、だいだいクイズがだいたい無しになりますので、ご注意ください。今年も元気に行きましょう。

◆疲れがとれるだいだいポン酢◆

だいだいが収穫できるこの時期は、焼きサンマにもだいだいポン酢。

大好物のなまこにも、だいだい果汁多めのポン酢が絶品。私にとってのだいだいポン酢は、おいしいだけでなく、「疲労回復」や「風邪の予防」にもなっている。クエン酸効果で元気ピンピンである。

◆青に戻る◆

ところで、なぜ「だいだい」と呼ばれるのでしょうか。答えは「回青（かいせい）」です。実の収穫を忘れて、そのまま木に放置されてしまうと、暖かくなり再び橙色から緑色に戻り、翌年また熟して橙色になります。放置



交通安全のお知らせ

令和3年中の交通事故発生状況について

新年明けましておめでとうございます。本年も交通安全に関する様々な情報を発信してまいりますので、よろしくお願いします。昨年中の交通事故発生状況やその特徴は次のとおりですので、これらを参考に事故のないように安全運転に努めてください。

1 交通事故発生状況(概数)

- (1)発生件数(人身事故) 2,121件(前年比 -44件)
- (2)死者数 32人(前年比 +12人)
- (3)傷者数 2,478人(前年比 -89人)

2 交通死亡事故の特徴

(1)歩行者が被害者となる死亡事故が大きく増加

令和3年中は、歩行中に亡くなる方が前年に比べて増加しました。ドライバーは、「人優先」の意識を持って運転しましょう。歩行者は、道路を横断する際は、横断歩道を渡りましょう。

(2)高齢者の死者が多い

全死者の5割以上が高齢者であり、高い割合となっています。高齢者の方は、より一層周囲の状況を確認するとともに、周りのドライ

バーは高齢者に優しい思いやり運転に努めましょう。

(3)車両単独の事故が多い

車両単独による死者も増加しています。漫然と運転するのではなく、運転に集中して、安全確認等を十分にすれば事故は防ぐことはできます。初心に戻り、緊張感を持って安全運転に努めましょう。

【県警察としては、引き続き関係機関・団体と連携しながら、子供や高齢者を始めとした歩行者の安全確保、「人優先」の交通安全意識の浸透に向けた交通安全教育等の推進、パトカーや白バイによるパトロール、飲酒運転等の悪質・危険な交通違反の指導取締り等の多角的な取組を効果的かつ強力に推進していきます。】



営農コラム

鏡餅と橙

営農開発課 技術主管 森 聡

もともと正月とは、年神様を家にお招きして過去一年の感謝をするとともに新年の豊作を願う行事です。年神様はお米の神様といわれていたことから、新年のお米の豊作を願って鏡餅をお供えするようになりました。鏡には神様が宿るとされていることから、鏡餅をお正月に供えることで、神様と一緒に年の初めを祝うとされています。鏡餅を重ねるのは、円満に年を重ねるという意味があり、大小の餅は陽の太陽と陰の月を表しているといわれます。

餅は神聖なものとしてだけでなく、重要な栄養源でもあります。モチモチと粘りがありゆつくりと消化吸収されるため、ご飯に比べて腹持ちがよいのです。このため持久力を要するマラソンなどの競技ではエネルギーの重要な補給源となっています。また、非常食としても貴重です。

鏡餅の上には橙（だいたい）を重ねる風習があります。これは、その家が繁栄し、代々（だいたい）続くようにと願って行われます。橙の実実は越年しても木から落ちず、2代3代と新旧代々の実が同時に成るため、家が栄える、子孫が代々栄えるとして縁起

がよいものとされています。

橙の原産地はインドのヒマラヤ地方で、中国を経て奈良時代に日本に伝わりました。欧州ではサワーオレンジ（ビターオレンジともいわれます）として親しまれています。酸味と苦味が強いのですが、香りが高く、栄養価も高い果実です。ポン酢やマーマレードなどに加工されたり、焼酎割り、蜂蜜を加え水や炭酸水で割った健康飲料などとして利用されます。機能性成分も豊富で、果皮は漢方薬として利用されています。また、精油の原料としても利用されます。

鏡餅を片付ける時期は1月11日の「鏡開き」です。年神様が宿っていたお餅を家族みんなで食べて、霊力を分けてもらい1年の無病息災を願います。もちろんそのときには橙も分け合って食べます。

鏡餅と橙をお供えし、鏡開きにはありがたくいただく。お正月の行事としてこの風習の意味するところを知れば、感慨深く有意義に取り組むことができます。



農業機械課

～SL33L(株式会社クボタ製)～

共同購入トラクター第2弾(中型)の取り組み

「共同購入トラクター第2弾(中型)」は、令和2年12月から出荷を開始し、全国累計2,400台の受注を受け付けました。

当県本部農業機械課では、本年も県内JAと連携・協力し、各農機展示会や佐古物流センター(徳島市北佐古一番町5番12号)での展示・内覧など、積極的な提案活動を実施してまいります。

共同購入トラクターに関するお問い合わせは、最寄りのJA、またはJA全農とくしま農業機械課(電話088-634-2521)までお願いします。

<製品紹介動画(YouTube)>



生産者&JA 全国一万人以上の声を反映

価格を安く 必要な機能を厳選 快適・安全な作業性 様々な作業への汎用性

生産者の営農規模と栽培品目の拡大を支援する

共同購入トラクター

基本型式 **SL33L** **中型** クラス **33馬力** (ネット値)

大容量48L 燃料タンク
概ね1日無給油での作業が可能

ノークラッチ 変速
ノークラッチで増速減速、前後進切替が可能

型 式 **SL33LFMAEP**
ロブス仕様 **285万円** (税別)
メーカー希望小売価格

型 式 **SL33LFQMAEP**
キャビン仕様 **359.7万円** (税別)
メーカー希望小売価格

型 式 **SL33LFQMAEPC2P**
半クローラ・キャビン仕様 **412.4万円** (税別)
メーカー希望小売価格

JAグループからのお買い お願い 納品まで **3ヶ月** かかります。
ご注文いただいた日から 令和5年3月までにご注文をお願いします

製品紹介動画はこちら (YouTube)

産直市「とくしまマルシェ」出店

当県本部園芸部は、県内JAに協力し、徳島市東船場町のしんまちボードウォークにおいて毎月最終日曜日に開催される産直市「とくしまマルシェ」に出店しています。

12月26日はJA麻植郡が出店し、ブロッコリーと白ネギの販売をおこないました。この日は寒さと強風のなかでしたが、年越しの買い物客などでたいへん賑わいました。

次回出店は、JA里浦ファーム・JA麻植郡で、令和4年1月30日(日)の予定です。

お問い合わせは、園芸販売課(電話088-634-2514)まで。



<https://tokushima-marche.jp/>



年越しの買い物客などで賑わいました

企画管理課

～2022年の活躍を期待～

女子プロゴルファー 前田陽子選手に 徳島県産農産物を贈呈

12月20日、当県本部が活動を応援している女子プロゴルファー前田陽子選手が、2021年の活動報告のため当県本部を訪れました。

前田選手は徳島県小松島市の出身で、当県本部の関連会社である日本青果包装株式会社に8年間勤務しながらゴルフを続け、2014年・2015年にはツアー優勝を果たしています。当県本部は平成27年度からスポンサー契約を結んでおり、試合などで全農のロゴマークを付けた帽子を着用していただいています。

前田選手の2022年の活躍を祈念して、長江郁哉県本部長より、徳島県産米あきさかりをはじめ、椎茸、レンコン、なると金時、スダチ、ブロッコリーなどの徳島県産農産物・加工品を贈呈しました。



長江郁哉県本部長(右)から前田陽子選手へ目録を贈呈

企画管理課

～統一的な社会貢献活動への取り組み～

令和3年度 「NHK歳末たすけあい」募金

全農では、平成18年度より本所および各県本部による統一的な社会貢献活動の一環として、NHK各放送局を窓口 to 募金活動を実施しています。

当県本部では、子会社の徳島県協同肥料株式会社およびジェイエイ徳島燃料サービス株式会社とともに、10月28日から11月22日までの間、各職場で寄付を募りました。

集まった72,000円の募金は、長江郁哉県本部長が12月21日にNHK徳島放送局を訪れ、表聖司(おもて・

ひじり)局長に贈呈しました。

この募金は、「共同募金会」を通じて、国内の福祉施設や新型コロナウイルス感染症拡大で不安を抱える方など、支援を必要とする方々のために役立てられます。



長江郁哉県本部長(右)から表聖司局長へ目録を贈呈

2022年JA全農とくしま家畜市場カレンダー

当県本部の「上板畜産センター」にて、2022年に開催する家畜市場(子牛・初生牛・和子牛)のカレンダーです。
詳しくは、畜産課(電話088-634-2474)までお問い合わせください。

2022 JA全農とくしま 家畜市場 カレンダー

子牛セリ市 10:00～開始 初生牛セリ市 13:00～開始 和子牛セリ市 10:00～開始

※ 和牛初生コーナー開催

1 January 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 23/30 24/31	2 February 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 27 28	3 March 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
4 April 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	5 May 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	6 June 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7 July 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	8 August 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	9 September 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10 October 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	11 November 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	12 December 日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

開催場所 上板畜産センター 徳島県板野郡上板町上六条南開 433-1
 (入金先: 徳島県信連本所(当) 4265320 全国農業協同組合連合会)
 詳しくは、全農徳島県本部 畜産課まで TEL 088-634-2474・FAX 088-634-2475

JA全農とくしま



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
クックパッド



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

— 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は無料です。送付先の氏名・住所変更や、送付の停止につきましては、JA全農とくしま企画管理課広報室(電話 088-634-2462)までご連絡ください。

